第2回生命の起原とアストロバイロジー国際学会

―バイオアストロノミー合同大会―

開催期間：　2014年7月6日～11日

開催場所：　奈良県新公会堂

国立天文台　天文データセンターセンター長　大石雅寿

第2回生命の起原とアストロバイロジー国際学会-バイオアストロノミー合同大会（Origins2014）は、2014年7月6日（日）から11日（金）に、奈良県新公会堂において開催された。アストロバイオロジーを構成する分野は大変広く、天文学、惑星科学、地球物理学、地球化学、化学、生化学、生物学などが関連している。即ち、これらの科学分野を網羅する研究者が世界から集結し、宇宙における生命の誕生と進化、そして生命の分布に関する最先端の研究成果を発表した。

参加者総数は24ヶ国からの345名であり、その内訳は、2名のノーベル賞受賞者（Jack Szostak博士とAda Yonath博士）を含む40名の招待講演者、220名の一般参加者、そして25名の学生である。これに加えて25名の同伴者があった。日本人参加者は、6名の招待講演者、81名の一般参加者、20名の学生で、合計117名であった。全体の1/3が日本からの参加者であったことは、本分野に興味を持つ研究者が日本に数多くいることを如実に示していると言えよう。

7月6日午後の開会式では、海部宣男IAU会長の挨拶に続き、Dave Deamer 生命の起原とアストロバイロジー国際学会会長、及び池原健二Origins2014大会運営委員長の挨拶があった。その後の能の舞では、海外からの参加者が感激していた。

科学セッションは、7月7日から11日まで開かれた。いずれの日も午前中に招待講演者による全体会、午後は関連する分科会に分かれ、最新の研究成果の口頭発表と熱い討議が行われた。また、並行してポスターセッションが開催された。口頭発表の総数は128、ポスター講演の総数は155であった。

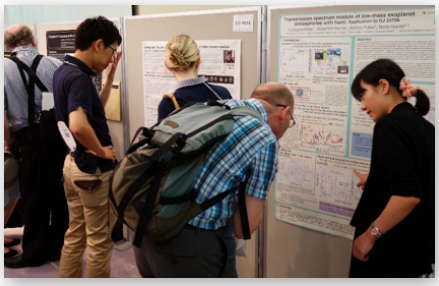
招待講演では、宇宙の有機物質とその化学進化、彗星・小惑星・隕石、前生命段階における複雑化（キラリティの起源、触媒効果など）、太陽系外惑星や惑星形成、惑星環境、タイタン・エンセラダス・エウロパ、火星、初期地球、前生命段階の化学、システム化学、生命の前段階、最初の生命の化学と生物学、RNAワールド、細胞前段階、生命進化、といった各テーマについて第一線の研究者が講演を行った。

我が国においても関心が高い系外惑星のセッションや太陽系内（火星／タイタン・エンセラダス・エウロパ）における生命探査セッションでは、立ち見が出るほどの参加者があった。これは、我が国も含めた多くの国の科学者が大きな期待を寄せている領域であることを明確に示したものと言える。

本会合では、特に若手研究者の参加が目立った。アストロバイオロジーが、まさにこれからの学問分野であることの証であると言えよう。次世代研究者の育成は、本会合の大きな目的の一つである。貴振興会からの助成金を会場費支払いの一部に充当できた結果、会合運営予算の一部を若手研究者の参加費軽減（当初計画では2万5千円だったものを1万5千円に）と旅費支援に回すことが可能となった。これにより多くの若手研究者が参加可能となり、若い世代が国境を越えて交流できる機会を与えられたことは、本国際会議を運営した者として望外の喜びである。

最後に、貴振興会による助成に対し、深く感謝の意を表させていただきます。

Szostak氏の基調講演風景



ポスターセッション

レセプション会場の様子